

平成20年度 学校評価（総括評価表）

重点課題	重点目標	評価指標（活動計画）	評 価		次年度に残された課題
1 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導の充実	<b>【小学部】</b> (1) 個別の指導計画を充実させ、個々の実態に応じた授業を行う。	<b>評価指標</b> ①授業参観を通して保護者の75%以上の方が個別の指導計画が生かされた授業内容であるとする ・公開授業、研究授業を通して小学部の教職員の80%以上が個別の指導計画の目標達成のための授業であるとする。	<b>評価指標による達成度</b> ①保護者のアンケートでは、授業参観された保護者が9名と少なかったが、100%の方が個別の指導計画が生かされた授業内容であるという結果であった ・教員の評価も100%個別の指導計画の目標達成のための授業であるという結果であった。	<b>総合評価</b> (評定) A 各学習グループで、研究授業を行い、授業改善に努めた。保護者のアンケート結果及び教員の評価も評価指標を満たしている。	・今年度については、個別の指導計画が充実し、個々の目標に応じた指導が行われたと評価できるが、次年度も今年度同様新メンバーになるが目標を達成できるよう努めていかなければならない。
	<b>【中学部】</b> (2) 個別の指導計画を生徒一人一人について教科ごとにまとめ、教科のきめ細やかな支援に役立てる。	<b>評価指標</b> ②前期1回、後期1回の検討会を行い、まとめ方や記入状況の確認をし、年度末にファイルの作成が完結できるようにする。 ・また、生徒一人一人について教科ごとに段階を追った目標が立てられているかどうか確認を行い、具体的な支援方法に役立てる。	<b>評価指標による達成度</b> ②前期1回、後期1回、また学部会や研修日に設定して検討を行った。年度末に向けてまとめを進めた。 ・国立特別支援教育総合研究所の各教科の具体的な内容例(試案)を参考に、後期の目標を考えた。	<b>総合評価</b> (評定) A 個別の指導計画の書式やまとめ方の検討がなされた。個々の生徒の実態に応じた支援の方法が検討された。ファイルを活用し、きめ細やかな支援に役立ててほしい。	本年度は、ファイルを作り、書式や内容の整理ができた。来年度は、各教科のファイルを活用して個別の指導計画を立て、実践を行うことができる。活用後アンケートをとって、ファイルやまとめ方・活用方法や有効性について検証が必要である。
	<b>【高等部】</b> (3) 就業体験での様子をフィードバックし卒業後の課題を明確にするとともに今後の方針を決定する。 ・進路希望先への「個別移行支援シート」と「支援ツール」等を使った移行支援計画を充実する。	<b>評価指標</b> ③進路先に対する全員の生徒(入院療養中の生徒は除く)の現状と課題が明確化したか。90%の達成を目指す。 ・就業体験を実施した生徒の「個別移行支援計画」、「サポートブック」(同意者のみ)が的確に作成されているか90%の達成を目指す。	<b>評価指標による達成度</b> ③就業体験をとおして、進路希望先等への体験が行われ、一人一人の現状把握と明確な課題が浮き彫りになり、本人や保護者へもフィードバックされた。100%達成。 ・全生徒に対して「個別移行支援計画」や「サポートブック」が作成され、実際の利用に至っている。100%達成。	<b>総合評価</b> (評定) A 就業体験を通して、卒業後の進路決定に際しての課題が明確化され、個別の移行支援計画が充実できた。	・今年度に関しては、重点目標に対しての目標を達成することができたが、今後も同様に達成していけるよう努力を続けていかなければならない。
	<b>活動計画</b> ①年度初めに小学部教員で全児童の実態及び個別の指導計画を検討する。 ・年間を通して、各学習グループ1回以上の研究授業あるいは公開授業を実施する。実施後、授業研究会を行う。 ・アンケートを実施する。 ・授業参観日にアンケートを実施する。	<b>活動計画の実施状況</b> ①指導計画の検討については、時期的に少し遅くなったが実施することができた。 ・研究授業については、各学習グループ1回以上実施し、その後、授業研究会を行った。 ・10月の授業参観週間後に保護者にアンケートを実施した。	<b>活動計画の実施状況</b> ②書式の検討を行い、一人一人について過去の目標を確認し、1～3年間の目標の手だてを順序立てて設定できるようにした。学習内容については、本年度の内容を教科ごとにまとめ、各グループごとにファイルを作成して綴じるようにした。	<b>活動計画の実施状況</b> ③前期・後期の就業体験より、「就業体験評価表」、「就業体験巡回記録」、「就業体験実習日誌」、「職務分析表」、「聞き取り」等から本人の様子や適性、現状と課題について検討し毎日の学習課題の中にフィードバックしていく。 ・就業体験から卒業後の移行支援がスムーズに行えるように、「個別移行支援計画」、「サポートブック」、「カード」や「AAC機器」の利用を進路予定先へ提案しながら利用をし、般化できるように工夫し改善を加える。	

平成20年度 学校評価（総括評価表）

重点課題	重点目標	評価指標（活動計画）		評 価		次年度に残された課題
2 学校及び教職員の専門性、教職員の資質・指導力の向上	<b>【小学部】</b> (1) 障害特性や個々の実態を理解し、よりよい授業が実践できる専門性の向上を図る。	<b>評価指標</b> ①各研修会に小学部教職員の85%以上参加する。 ・事例研究会で研究、協議された内容を年度末にまとめる。 ・学部的全教員が1回以上公開授業や研究授業を行う。	<b>評価指標による達成度</b> ①校内で行われた教員に対する研修会には、89%の割合で参加できた。 ・事例研究会での内容は、実践記録として1月16日段階で原稿が提出された。 ・各グループで1回以上公開授業や研究授業を行うことができた。	<b>総合評価</b> (評定) A 専門性の向上のために、校内での研修会に積極的に教員が参加し、事例研究会を熱心に行い、実践記録の執筆も早期に完成させた。 また、公開授業・研究授業に教員が積極的に参加した。	全体では89%と評価指標を越えることができたが、研修会によっては、目標数値を下回るものもあった。他の校務との関係もあるが、今後も専門性、資質、指導力向上のため研修会にできるだけ参加する必要がある。  SSTは各クラス、各担任で実践を行ってきた。本年度身についたことを、今後は様々な場面で誰に対しても行えるよう、場面や相手を教科グループや学部全体、家庭へと範囲を広げ、いろいろな設定の中で行えるようにする必要性を感じている。  進路支援に関しては、年度ごとに、新しい取り組みになるため、引き続き同様の(100%達成を目指した)取り組みを行っていかねばならないと考える。	
	<b>【中学部】</b> (2) 生徒の日常生活に必要なスキルやトレーニングの方法について研修会を行う。	<b>評価指標</b> ②毎月1回、研修会を設定する。年度末に、実践記録としてまとめる。	<b>評価指標による達成度</b> ②学部会や研修日、コンサルテーション等での会も含めて、毎月1回の研修を行うことができた。2月上旬に実践記録としてまとめ、研究課へ提出。	<b>総合評価</b> (評定) A 研修会に積極的に参加し、実践記録として事例研究をまとめた。		
	<b>【高等部】</b> (3) 進路相談、サポート会議、学級懇談等を通して、保護者への様々な進路先や福祉サービスの情報提供を行う。 ・「個別移行支援計画」から「個別移行支援シート」と「サポートブック」の作成と修正加筆、スムーズな移行支援の提案ができる。	<b>評価指標</b> ③保護者に対して、生活拠点となる所、進路希望先の就業時間や休日、通勤方法、賃金や利用料、作業内容や準備物等の情報提供ができたか。100%の達成を目指す。 ・移行支援である「サポート会議」に向けての、ツールとなる「サポートブック」と「個別移行支援シート」の作成や計画ができたか。100%の達成を目指す。	<b>評価指標による達成度</b> ③家庭訪問、学級懇談、進路相談、サポート会議をとおして、進路先の情報や通勤方法、持ち物、制度の利用について等の情報をもれなく提案することができた。100%達成。 ・卒業生の移行支援のツールとなる「個別移行支援シート」の作成から利用も滞りなく活用できた。また、「サポートブック」を就業体験の折から活用でき同意書を含め目標を達成できた。100%達成。	<b>総合評価</b> (評定) A 保護者に対して、様々な機会に進路に関する情報提供ができた。「サポートブック」「個別の移行支援計画」の提案ができた。		
	<b>活動計画</b> ①専門性の向上を図るため校内で行われる研修会に参加する。 ・毎月1回以上、学部で事例研究会を実施する。 ・公開授業や研究授業を実施する。	<b>活動計画の実施状況</b> ①校内で行われた研修会には積極的に参加した。 ・事例研究会は、2ヶ月に1回実施することができた。 ・公開授業、研究授業は各グループで1回以上実施できた。	<b>活動計画の実施状況</b> ②各クラスで「社会性チェックリスト」でアセスメントを取り、SSTでの実践対象生徒を決めた。研修会ではソーシャルスキル教育の基礎や進め方について資料を基に勉強会を行った。また8月には講師を招聘して研修会をもち、その必要性について学び、実践方法についての知識を深めることができた。			
	<b>活動計画</b> ②中学部段階での生徒の実態や個々の課題、高等部への移行を考えた日常生活におけるスキルの見直しを行う。定期的に研修会を行い、ソーシャルスキルについての理解を深める。対象生徒をあげて実践を行い、専門的な知識を身につける。	<b>活動計画の実施状況</b> ③就業体験の機会を利用して、体験の様子や状況をフィードバックすることができた。また、一人一人の進路希望先のサービス利用状況を、進路相談等をとおして全保護者に情報を提供することができた。100%達成。 ・移行支援のツールとなる「個別移行支援シート」の作成から利用も滞りなく活用できた。また、全学年とも「サポートブック」を就業体験の折から活用でき同意書を含め目標を達成できた。100%達成。				

平成20年度 学校評価 (総括評価表)

重点課題	重点目標	評価指標 (活動計画)		評 価		次年度に残された課題
3 地域に根ざし 地域に開かれた 学校づくり	【全 校】 (1) 地域との連携を より深め特別支援教育 ・障害に対する理解啓 発を図る。	<b>評価指標</b> ①センター的機能の内容について検討し、より地 域のニーズに応えられる研修を企画し、自校校内 研修を積極的に公開する。 研修会後にアンケートをとり、各会の内容につ いて80%以上の肯定的評価を得る。	<b>評価指標による達成度</b> ①昨年度の研修に参加した地域の学校や関係機関の アンケート結果を受けた上で、自校校内研修を公開 する形で6回の研修会を行った。 研修会後のアンケートの回収率は、昨年より6% 伸びて平均77.2%であり、その99%の回答者から 肯定的評価を得た。	<b>総合評価</b> (評定) A 地域のニーズに応 じた研修が設定さ れ、大勢の研修参加 者があるとともに、 肯定的な評価の割合 が高かった。	地域連絡協議会の動向を見 ながら、関係機関との連携 づくりを更に深めていくこ と。 センター的機能としての研 修会の内容や回数を更に充 実させていくこと。そのた めの予算の確保と校内の職 員の専門性の向上を図ること。	
	(2) 植栽活動、音楽 活動、創作活動、展覧 会を通じて、地域に開 かれた学校行事を推進 する。	<b>評価指標</b> ②オンリーワンハイスクールパワーアップ事業(植 栽活動、音楽活動、創作活動、展覧会)のなかで、 地域の人たちの参加30名以上をめざす。	<b>評価指標による達成度</b> ②オンリーワン事業の各活動において、地元のカ プテレビでCMを流したり、広告を制作し、学 校周辺の家庭に配布するなど広報活動に力を入 れた。その結果、各活動とも目標を達成することが できた。	<b>総合評価</b> (評定) A オンリーワンハイ スクールパワーア ップ事業で、多彩な催 しを行い、地域の参 加者も多く、開かれ た学校づくりを推進 した。	オンリーワンハイスクール パワーアップ事業は、単年 度の事業であるが、来年度 も事業の有無にかかわらず 今年度行った内容を行いた い。しかしながら、予算等 の関係で出来る内容が限ら れてくるので、状況に応じ 出来る範囲で行い、地域と の交流を深めたい。	
	(3) 各課と連携し、 ホームページを通して 保護者や地域へ学校の 情報を発信する。	<b>評価指標</b> ③-1 ホームページの更新を年12回以上行い、 最新の情報を発信する。  ③-2 6月1日から1月9日までの間に、500人 以上からホームページへのアクセスを得ることが できる。	<b>評価指標による達成度</b> ③インターネットにアクセスできる環境を持って いる保護者の内、57.1%の方が1回以上ホームペ ージにアクセスし、アクセスした方の69.2%の方 が最新の情報を得ることができたと回答した。 また、延べ1340回のアクセスを評価期間中(平 成20年6月1日～平成21年1月9日)に得ること ができた。	<b>総合評価</b> (評定) A ホームページの更 新を20回行い、ホ ームページへのア クセスも1340回 得ることが出来た。 本校の最新の情 報を発信することが 出来た。	過半数の保護者が地域的 事情や経済的事情により、 インターネットに接続でき る環境にない。しかし携帯 電話であれば所有率は高 くなると思われる。 今後は携帯電話のweb サイトからアクセスでき るようなホームページの あり方が求められる。次 年度以降検討・調査して いきたい。 更新回数を次年度以降 も増やすとともに、ホ ームページを通じた情 報発信・情報公開に一 層努力していきたい。 また授業の様子を発 信するなど保護者に対 しての内容の充実にも努 力していきたい。	
		<b>活動計画</b> ③ 情報発信にあたって、各課と連携し地域や保護 者の方々が必要な情報を発信する。	<b>活動計画の実施状況</b> ③各課と連携した結果、のべ20回のホームペ ージ更新を行うことができた。 特に涉外課が実施しているベルマーク運動のPR や支援教育課が行っている公開研修会の情報発信 などにホームページが活用された。			

平成20年度 学校評価（総括評価表）

重点課題	重点目標	評価指標（活動計画）		評価	評 価	次年度に残された課題
3 地域に根ざし地域に開かれた学校づくり	<p><b>【小学部】</b>                      (4) 交流及び共同学習（箸蔵小との交流、居住地交流）を通して、地域の児童とかわり合い、相互に理解を深める。</p>	<p><b>評価指標</b>                      ④交流及び共同学習終了後、アンケートを実施し、両校の児童の90%以上が満足する。</p>	<p><b>評価指標による達成度</b>                      ④箸蔵小との学年交流終了後のアンケートでは、一緒に活動できた88.9%、分校の友だちのことを知ることができたが75%、楽しい活動であったが88.9%、また交流したいが93.9%であった。</p>	<b>総合評価</b>	<p>(評定)                      B                      箸蔵小学校との交流学習は相互に理解を深めるよい機会となっている。                      しかし、アンケートの結果、分校の友だちのことを知ることが出来たとの回答がやや低かった。</p>	<p>箸蔵小学校の多くの児童が交流及び共同学習の活動について満足しているようであるが、まだ本校の児童について伝えていく必要がある。</p>
	<p><b>【中学部】</b>                      (5) 学校見学や体験学習の受け入れに応じ、支援の方法や進路選択に役立てられるよう作業学習の授業や課題学習の内容を公開する。</p>	<p><b>評価指標</b>                      ⑤学校見学の依頼に100%応じる。体験学習の依頼に3件以上応じる。                      見学者や引率教諭・保護者に作業学習の見学後、必ず感想を聞くことにする。</p>	<p><b>評価指標による達成度</b>                      ⑤学校見学3件、体験学習4件の依頼に応じることができた。見学後は本人・保護者・担任の希望や意見を聞き、以後の体験学習につなげることができた。</p>	<b>総合評価</b>	<p>(評定)                      A                      学校見学や体験学習の希望者の受け入れに応じた。中学部内及び学校全体として、作業学習の支援方法に付いて研修を深めることが出来た。</p>	<p>校内の生徒とは別に、体験学習希望生徒の実態に合わせた作業内容の準備や課題の設定が必要であった。事前に生徒の実態を担当や相談員から聞き取る必要があった。</p>
	<p><b>【高等部】</b>                      (6) 就業体験（事業所・福祉サービス提供事業所）を充実させ、理解啓発を進める。                      ・関係諸機関との連携を強化する。</p>	<p><b>評価指標</b>                      ⑥新規事業所の職場開拓を進め、就業体験先の拡大を図る。4社以上の新規事業所の職場開拓を目指す。                      ・校内開催の進路関係会議（「進路相談」「職業評価」「サポート会議」）において、外部の方々の来校の機会を増やす。20名以上の外部からの参加者を目指す。                      ・関係諸機関開催の各種会議やイベントへ参加し、連携を密にする。延べ15人の参加を目指す。</p>	<p><b>評価指標による達成度</b>                      ⑥事業所開拓においては、10か所に渡る新規事業所での就業体験ができ、計27か所に及んで就業体験となった。実際は54か所の職場開拓ができた。100%達成。                      ・就業生活支援センター、公共職業安定所、職業センター、福祉事務所等の進路関係会議に30名を越す参加者を迎えることができた。100%達成。                      ・ネットワーク会議や自治体毎の定例会議等に参加し情報交換に努めることができた。延べ36人の参加となった。100%達成。</p>	<b>総合評価</b>	<p>(評定)                      A                      積極的に職場開拓を行い、関係機関との連携を図れた。                      新規事業所での就業体験先も10か所に渡り、職場開拓も積極的に行った。                      校内開催の進路関係会議に外部からの参加者も目標を達成した。                      また、関係諸機関開催の各種会議やイベントに参加し、連携を深めることが出来た。</p>	<p>関係諸機関との連携や、就業体験（事業所・福祉サービス提供事業所）を充実させ、理解啓発を進める。ことについては、毎年かわることなので、引き続き取り組んでいくことの必要性を感じている。</p>
		<p><b>活動計画</b>                      ⑥新規事業所の職場開拓を含め、新たな就業体験先を確保していくとともに、「進路相談」や「サポート会議」の機会を使って多くの事業所に来校していただき、理解啓発に努める。                      ・障害者就業・生活支援センター箸蔵山荘、三好公共職業安定所、美馬公共職業安定所、各市町毎の自立支援協議会、圏域内の就労支援ネットワーク会議、市(町)福祉事務所や商工会等との協議会への参加や連携を密にする。</p>	<p><b>活動計画の実施状況</b>                      ⑥事業所開拓においては、10か所に渡る新規事業所での就業体験ができ、計27か所に及んで就業体験となった。「進路相談」や「サポート会議」の機会に、3か所の事業所から来校いただき、学校の様子等理解いただいた。                      ・障害者就業・生活支援センター箸蔵山荘、三好公共職業安定所、美馬公共職業安定所、各市町毎の自立支援協議会、圏域内の就労支援ネットワーク会議、市(町)福祉事務所や商工会等との協議会へ積極的に参加し連携を密にすることができた。</p>			